



平成29年度事業計画書

自 平成29年4月1日
至 平成30年3月31日

学校法人多摩美術大学

目 次

はじめに	1
1. 中長期的な基本計画	1
(1) 教育及び研究体制の整備と再点検	
(2) 学生受け入れ態勢の強化	
(3) 国際的な美術家、デザイナー、教育者育成のための環境整備	
(4) 専門性と総合性の融合を目指した教育改革	
(5) 教育・研究環境の充実に向けたキャンパス整備	
(6) 管理運営の強化	
2. 平成29年度事業計画の概要	2
(1) 教育及び研究体制の整備と再点検	2
1. 教育課程、教育内容、教育方法の改善に向けた取り組み	
2. 大学基準協会認証評価（平成27年度申請）結果の対応	
3. 研究施設及び研究発表スペースの拡大	
(2) 学生受け入れ態勢の強化	3
1. 平成28年度より開始した推薦入学試験の継続実施	
2. 進学相談会等の取り組み	
3. 学生支援	
(3) 国際的な美術家、デザイナー育成のための環境整備	4
1. 新たな交換留学実施のための海外協定校拡充及び交流内容に関する見直し	
2. 交換留学制度（派遣・受入）	
3. パシフィック・リム（Pacific Rim）	
(4) 専門性と総合性の融合を目指した教育改革	5
(5) 教育・研究環境の充実に向けたキャンパス整備	5
1. 上野毛キャンパス整備	
2. 八王子キャンパス整備	
(6) 管理運営の強化	6
1. 人事管理・労務管理の見直し	
2. 人材の採用・育成	
3. 法改正及び危機管理対応	
4. 財政基盤の強化	
3. 平成29年度事務部門の計画（骨子）	7
1. 教育改革面の推進計画	7
教務部、入学センター、研究支援部、学生部、図書館、美術館、 メディアセンター、生涯学習センター、芸術人類学研究所	
2. 管理運営面の推進計画	10
総合企画室、総務部、経理部	

平成 29 年度事業計画

はじめに

本学の淵源は、昭和10年（1935年）9月開設の多摩帝国美術学校にある。本学は、北畠吉、杉浦非水、井上忻治、牧野虎雄らが中心となって、官立の美術学校にはない「自由なる精神」が生み出す美術の根源を求めて、東京府（現在の東京都）東京市世田谷区上野毛の地に創設された。以来80有余年「自由と意力」の理念の下、常に芸術の先端的な動向を切り拓き我が国の芸術文化の進展に寄与すべく、現代社会に貢献する優れた芸術家・デザイナー並びに教育者・研究者の育成を目標に掲げ、広く造形芸術全般について高度な学理技能を教授研究し、あわせて国際社会に対応する幅広い教養を身につけた人材の育成を目指して努力を重ね、これまで全課程において4万5百有余人の才能溢れる卒業生を社会に送り出している。

1. 中長期的な基本計画

近年、大学を取り巻く社会環境は大きく変化してきているが、芸術系の大学もその例外ではありえない。グローバリズムの波が文化芸術の分野にも押し寄せ、他方では多文化主義の主張が幅広く浸透してきている。AIの急速な進展もアートに大きな影響を及ぼさずにはおかないだろう。負の側面としては偏狭で排他的な不寛容の思想が台頭し、テロや地域紛争は絶えることがなく、また貧困の問題がシリアスさを増してきている。

こうした状況下にあって本学に期待される役割はきわめて大きいといわなければならない。時流に迎合するのではなく、将来のヴィジョンを見極めた上で社会的な要請に積極的に対応することは、象牙の塔であることに甘んじてはられない大学の喫緊の使命であるにちがいない。建学以来の教育、創造、研究の伝統を踏まえつつ、柔軟かつ大胆に、新たな時代のアートの中核を担う大学の責務を果たしていくつもりである。

さて本学においては教育に関する質的転換を図るための施策として、学長のリーダーシップの下で法令上位置付けられた三つのポリシーの策定が稼働している。

「卒業の認定に関する方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程の編成及び実施に関する方針」（カリキュラム・ポリシー）、「入学者の受入れに関する方針」（アドミッション・ポリシー）を策定しステークホルダーに的確に伝わる内容に表現して、これらのポリシーと本学の建学の精神である「自由と意力」に基づく大学教育改革を自主的・自律的に推進し永続的な発展を目指す。

アドミッション・ポリシー改革の手始めとして昨年11月、全学科において推薦入試を実施し、表現者としてオリジナリティ溢れる創造力・発想力・表現力・企画力・応用力・柔軟性等を備えた意欲ある多様な入学生を迎えたところである。

平成29年度の事業計画策定にあたり、その前提となる中長期的な基本計画は以下の通りである。

- (1) 教育及び研究体制の整備と再点検
- (2) 学生受け入れ態勢の強化
- (3) 国際的な美術家、デザイナー、教育者育成のための環境整備
- (4) 専門性と総合性の融合を目指した教育改革
- (5) 教育・研究環境の充実に向けたキャンパス整備
- (6) 管理運営の強化

2. 平成29年度事業計画の概要

中長期的な基本計画に基づき策定された事業計画の概要は次の通りである。

(1) 教育及び研究体制の整備と再点検

1. 教育課程、教育内容、教育方法の改善に向けた取り組み

①教育課程の体系化

カリキュラム、履修案内、シラバス、時間割、出校表等を再点検して教育課程を体系的に整備し授業と学事の円滑な実施を進める。

②カリキュラム改革への取り組み

平成27年度に改訂した教養教育カリキュラム設計書に基づく、共通教育時間割のゾーン・ルール化やシェイプアップ化などの改革を更に推進し本学に相応しいキャリア教育を継続実践する。

③統合デザイン学科、演劇舞踊デザイン学科の完成年度に向け設置の趣旨、目的に沿った教育研究活動の実施及びカリキュラム、時間割の充実化を図り設置計画の完全履行を実現する。

④多様化する学生への対応

適切、親密な履修相談等を通じて欠席過多学生や障がいを持つ学生への修学支援を推進する。

2. 大学基準協会認証評価（平成27年度申請）結果の対応

平成28年度に引き続き以下の課題解決に取り組む。

【教員・教員組織】

①教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

美術研究科の教育課程の編成・実施方針は課程ごとに定める。美術学部の教育課程の編成・実施方針は、内容を見直しホームページで公表する。

②教育課程・教育内容

美術研究科博士後期課程は課程制大学院制度の趣旨に照らして改善し同課程に

相応しい教育内容を提供する。

③教育方法

年間履修登録可能単位数の上限を設定する。

美術研究科の博士前期課程における研究指導や学位論文作成指導を研究指導計画に基づいて確実に行う。

④成果

「課程博士」の取り扱いを見直すとともに課程制大学院制度の趣旨に留意して修業年限内の学位授与を促進させる。

美術研究科博士前期課程および博士後期課程において学位論文や作品の審査基準を「履修案内」等に明記する。

【内部質保証】

全学的なP D C Aサイクルを機能させるため「学内改革・大学評価申請本部」の設置、構成メンバー、審議事項、自己点検・評価の周期等を定め、内部質保証についての恒常的な組織体制が確実に機能するよう進める。

3. 研究施設及び研究発表スペースの充実

①アートテークの本格稼働

ギャラリースペースやアーカイブ研究、各種コレクション収蔵、自由デッサン室、大学院博士後期課程アトリエ、メモリアルルームなどで構成される知と創造の芸術的複合施設を本格稼働させ研究成果発表に広く活用する。

(2) 学生受け入れ態勢の強化

1. 平成28年度より開始した推薦入学試験の継続実施

本学は、変化の度合いを深めつつある社会環境にあって、文化芸術のさまざまな局面で活躍しうるバイタリティーに富んだ、多様な人材を育成することを重要なミッションとして掲げてきた。

昨年度全学的に導入した推薦入試はその意図をさらに先へと進めるものであり、この入試にあっては一般入試には無い面接試験を通して、それぞれの分野で望まれる資質、そこで学ぶ積極的な意欲、将来への明確な姿勢などが総合的に試された結果、表現者としてオリジナリティに溢れた意欲ある多様な入学生を迎えた。このことにより平成29年度においても完成度の高い推薦入試を継続して実施する。

2. 進学相談会等の取り組み

平成29年度入学生の一般入試の志願者数は5,748人で昨年度に比べ493人減、率にして7.9%減少であった。昨年度から実施された推薦入試における志願者数は414人と募集人員約155名に対し十分な数であった。

昨年度開催のオープンキャンパス及び進学相談会来場者数も増加しているの

今後の志願者数増加に結び付ける。今年度もオープンキャンパスと進学相談会の同時開催を7月15日（土）、16日（日）の2日間予定し、来場者に本学の特徴である学生の元気や熱意を通して本学の雰囲気を感じてもらえる機会とする。

また、11月3日（金）～5日（日）開催の芸術祭においても進学相談会を実施して、適宜適切な密度の濃い情報提供を行う。更に高等学校教員が開催する各種大会や協議会、研究会とも結びつきを強くするための取り組みを強化する。

3. 学生支援

- ① 学生生活調査結果を活用した体系的な学生支援体制の構築を図る。
- ② 八王子キャンパス南側遊歩道隣接地における学生寮の整備計画を策定する。
- ③ 本学学生優先寮を整備する。

平成27年から本学学生の受入れが始まった学生（優先）寮の利用者数の増加
【学生優先寮の概要】

建物名 ディアコニア橋本

所在地相模原市緑区橋本6-6-10

八王子キャンパスから約2Km（橋本駅まで徒歩5分）

構造等 平成15年3月竣工、RC造6階建、全137室うち88室

- ④ 新たな奨学金を創設する。

昨年度までの募金活動により創設された創立80周年記念奨学基金1億円から今後10年間に亘り、毎年奨学費として学業成績最優秀者30余名へ各30万円を給付する。

これにより、本学の奨学事業費は総額で2億円余となり学生支援が一層拡充する。

(3) 国際的な美術家、デザイナー、教育者育成のための環境整備

1. 新たな交換留学実施のための海外協定校拡充

海外大学協定校は22大学（平成29年3月現在）であり、このうち平成28年度中に交換留学生として本学学生が派遣されたのは、ベルリン芸術大学（ドイツ）4名をはじめとする10大学16名、協定校から受入れた学生はアアルト大学（フィンランド）4名をはじめとする13大学32名である。

海外へ赴く学生や海外から受入れる留学生を通じて学生のグローバル感覚を養うためには、より多くの交換留学生との交流が求められることから、協定校拡充に向けた交流内容の見直しを進める。

2. 交換留学制度（派遣・受入）

平成29年度の交換留学生派遣計画については、協定校のうちベルリン芸術大学4名、アアルト大学2名、弘益大学校（韓国）2名、ヘリット・リートフェルト・

アカデミー（オランダ）、グラスゴー美術学校（イギリス）、チェルシー・カレッジ・オブ・アーツ（イギリス）、国立台北芸術大学（台湾）、国立台湾芸術大学（台湾）、シンシナティ大学（アメリカ）各1名、合計14名の学生が推薦されている。多くの学生を派遣し協定校との連携を深めることで双方の教育環境の整備を図りグローバルな人材の育成を目指す。

平成29年度前期の交換留学生受入についてはベルリン芸術大学、弘益大学校、中央美術学院（中国）各1名、合計3名が確定している。

3. パシフィック・リム (Pacific Rim)

昭和56年度にアートセンター・カレッジ・オブ・デザイン（アメリカ）が実施する夏期研修に本学学生が初めて参加して以来、27年に亘り続けてきた海外交流を平成18年度から「Pacific Rim」プロジェクトと呼称し、隔年毎に学生が相互の大学を訪れて環境保護や自然災害などグローバルな社会問題をテーマに取り上げ、学生同士が協働して行う学際的協働研究授業を12年間にわたり実施している。

平成27年度に本協定の4年間延長が合意されて、今年度はアメリカステージが開催され本学から10名の学生派遣が決定している。

(4) 専門性と総合性の融合を目指した教育改革

美術学部は八王子キャンパスに8学科5専攻2コース、上野毛キャンパスに2学科2コースが設置され、それぞれが高い専門性を持った教育研究を進めている一方で、学科別にタテ割りで全学科を貫くもの、いわゆる総合性に欠けることがある。

これを補う視点から、本学が目指す専門的職業人や独立した作家の育成に不可欠なプログラムとして、全学科・全学年の学生が履修できる課題解決型のPBL

(Project Based Learning) 科目や企業及び自治体との産学官共同研究、著名な企業人や作家を招く特別講義など全学科対象のオープン科目を導入し、学生が授業を通じて触発し合うことにより、柔軟な考え方や新たな創造を生み出す取り組みを継続的に実施する。

また、共通教育においては総合的な教養に配慮して芸術を目指すものの基盤を重視した科目を配置する。

(5) 教育・研究環境の充実に向けたキャンパス整備

本学の校地及び校舎面積は国が定める大学設置基準を満たしており、上野毛キャンパスと八王子キャンパスにおいて、それぞれの立地の特性を活かした教育研究活動が行なわれている。

特に教育研究領域に対応する専門施設に加え、共同施設（図書館、美術館、メディアセンター、アートテーク、セミナーハウス奈良飛鳥寮・山中純林苑等）も充実

しており所属学科の領域外のことに触れて学ぶ環境も十分整備されているが、更にこれらの施設設備の充実を目指す。

1. 上野毛キャンパス整備

- ①統合デザイン学科・演劇舞踊デザイン学科の完成年度に向けた学科設置計画にかかる施設設備の改修工事を実施する。
- ②キャンパスに隣接する道路（都道駒沢通り）拡幅計画にかかる対応を進める。
- ③上野毛キャンパス整備計画の策定を進める。

2. 八王子キャンパス整備

- ①過年度に実施された施設設備の修繕や改修工事履歴に基づく、長期修繕計画をまとめ効果的な施設設備の改修工事を実施する。
- ②昨年度に実施した学生クラブ棟の大規模改修、絵画棟の耐震化工事に続く、八王子キャンパス各棟の維持改修計画を策定する。
- ③昨年度末に取得したキャンパス南側遊歩道隣接地（11,640㎡）の全体利用計画を策定する。

(6) 管理運営の強化

1. 人事管理・労務管理の見直し

- ①新人事システム移行後の検証と円滑な運営を実行する。
- ②新人事システムとの連携による勤怠管理システムの導入を検討する。
- ③人事考課制度及び賃金テーブルの見直しを柱とする新人事制度を提案する。

2. 人材の採用・育成

- ①就職情報サイト利用（マイナビ）による新卒職員採用を実施する。
- ②管理職者を除く専任職員にキャリアプランを作成させ、プランに基づく部署別人材育成計画を管理職者にまとめさせる。
- ③キャリアプランに基づく個別面談を適宜実施する。
- ④SD研修による組織力の強化・業務知識の向上・スタッフ能力の高度化等を進める。

3. 法改正及び危機管理対応

- ①平成27年12月より義務付けされた労働者に対するストレスチェックの利用率向上に向けて実施する。
- ②平成28年1月より施行されたマイナンバー制度の円滑な運用に努める。
- ③巨大災害発生時の地域自治体との協力・連携等による危機管理体制を構築する。

4. 財政基盤の強化

- ①平成31年10月からの消費税増税に対応すべく財政基盤強化のため、効率的な予算執行と無駄を省く経費削減を進め安定した教育資金の確保に努める。
- ②年間を通じた寄付金募集や積極的な補助金申請を実行する。
- ③管理経費は前年度▲3%を目標に削減させる。
- ④2018年～2033年の15年間に亘る18歳人口減少影響を取り込んだ財務シミュレーションを作成し今後の経営判断資料とする。

3. 平成29年度事務部門の計画（骨子）

事務部門における主な計画の骨子は以下の通りである。

1. 教育改革面の推進計画

教務部

- ①教育課程、教育内容、教育方法等の改善に向けた取り組み
(教育課程の体系化、カリキュラム改革への取り組み、多様化する学生への対応、職員の職能開発(SD))
- ②大学基準協会大学評価(平成27年度申請)における指摘課題への対応
(教員・教員組織<指導資格基準明示>、教育内容・方法・成果<教育目標、学位授与方針、教育課程、研究指導計画>、内部質保証<自己点検評価の定例化>)
- ③「学校教育法施行規則の一部を改正する省令(第16号)」に係る整備対応
(「卒業認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)」「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)「入学者の受入に関する方針」(アドミッション・ポリシー))について理念、目的、目標に沿った検証と見直しを行い具体的かつ一体的に整備する。
- ④教務部コンピュータシステム整備
(基幹システムへの移行準備、情報管理のマニュアル化推進)
- ⑤国際交流の推進・制度化
(海外協定校の拡充、協定校からの教員招聘、Pacific Rim 12 アメリカステージの実施)

入学センター

- ①一般入学試験のWeb出願に向けたシステム構築
- ②アドミッション・ポリシーの再構築(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーとの連動)
- ③完成年度を迎える新学科の大学院志願者への効果的告知による募集と

運営

- ④イベント計画と広報業務の効率化（オープンキャンパス内容見直しと動員強化）
- ⑤公的機関との連携強化（全国高等学校美術工芸研究大会、全国高等学校文化連盟、全国美術高等学校協議会、全国高等学校演劇協議会他）

研究支援部

- ①研究費に関するルール・事例集の整備
- ②公的研究費の管理・監査のガイドラインに基づく体制整備の促進
- ③学内研究活動の活性化と情報公開促進
- ④アートワークの管理・運営（ギャラリーの管理運営、アーカイブの整理）

学生部

- ①学生満足度の向上（学生生活調査の結果分析、意見箱等による課題の共有化と学生支援委員会を通じた解決）
- ②学生支援の見直し（支援方針を再検討し体系的な支援基盤整備、施策のP D C Aサイクルによる検証）
- ③奨学金等の対応、見直し（日本学生支援機構奨学金・本学奨学金・学費減免制度）
- ④多様化する学生支援（欠席過多学生、障がいを持つ学生等の要ケア学生に対して研究室との連携による早期発見と支援実施）
- ⑤進路・就職支援の推進強化（就職率と就職内定率の向上）
- ⑥上野毛美術学部進路・就職支援対策（ガイダンスの充実、学内説明会実施、企業情報の共有化）
- ⑦教職員の連携強化（学生支援委員会、就職担当教員）
- ⑧ケアを要する学生への進路・就職相談等支援強化（定例会議等による情報共有化）

図書館

- ①サービスの充実と学内利用者の満足度向上（ガイダンス・講習会、企画イベント＜貴重資料等の展示＞開催、八王子図書館閉架書庫の開放）
- ②蔵書・資料の整備充実（特色を生かした蔵書構築の推進、映像資料の充実、除籍・廃棄資料の有効活用、収蔵分野の拡大）
- ③運営・管理のレベルアップ（上野毛・八王子両館職員の業務一本化の検討、業務委託体制の見直し、L I M E D I O保守終了に伴う新システムへの円滑な移行）
- ④人材育成（S D 研修による業務知識・管理能力の向上）

美術館

- ① 展覧会（収蔵コレクション展等年間5本）
コレクション展Ⅰ（テキスタイルワークス）
宮崎 進 — すべてが沁みる大地 —
退職記念展（渡辺達正教授、米谷清和教授）
コレクション展Ⅱ（写真作品他）

メディアセンター

- ① 研究センター：データベースを使った研究活動支援
- ② 情報センター：学内ネットワーク環境の整備、サーバー切り替え
- ③ 映像センター：学生の制作環境を強化するため機材構成の充実化、3D CGソフト更新
- ④ 写真センター：スタジオ施設、写真機材の有効活用及び最新機材へ更新講習会開催
- ⑤ 工作センター：安全衛生診断に基づく安全第一の運営、3D切削機の稼働
- ⑥ CMTEL：展示収蔵品の収集・充実、学生の制作活動に係る実践的サポート
- ⑦ 上野毛スタジオ：映像・撮影スタジオ施設の本格稼働、多目的視聴覚部屋整備
- ⑧ 事務室：Adobeソフトの学生無料利用の促進（講習会実施）、ホームページ改訂

生涯学習センター

- ① 生涯学習事業を通じて本学の持つ潜在的な力・リソースによる社会へのアピール
- ② こども講座における多様な事業展開と連携強化
- ③ 都心及び上野毛キャンパス周辺で行うフラッグシップ事業の検討
- ④ 広報アプローチの見直しと広報強化
- ⑤ 上野毛キャンパスでの活動再開を視野に入れた中・長期的プラン作成

芸術人類学研究所（IAA）

（1）研究プロジェクトと連動した大学内外における連携活動の推進と教育活動

- ① 学内連携と本学学生への研究成果還元
学内各学科、美術館、生涯学習センター、学生へ研究所主催の研究会開放、IAAフィルムセレクション
- ② 社会連携
「土地と力」プロジェクト、学外研究機関、自治体、出版社等との共同

プロジェクト

③地域連携

各種ワークショップ、里山プロジェクト

(2) 研究会・プロジェクトの推進とプロジェクト間の連携

①「土地と力」プロジェクト

②ユーロ＝アジアをつらぬく美の文明史プロジェクト

③野外をゆく詩学プロジェクト

④贈与と祝祭の哲学プロジェクト

⑤来たるべき美術プロジェクト

⑥纏れのデザインプロジェクト

2. 管理運営面の推進計画

総合企画室

- ①入学試験に関する市場の調査ならびに諸統計等の収集・分析（志願者・入学者データに基づき学生募集の対応を提案）
- ②広報誌の見直し（「大学案内」「TAMABI NEWS」「トナトリエ」を制作目的に沿って刷新）
- ③ホームページの見直し（見やすさ、検索機能の強化）
- ④大学広報の強化（広告効果を検証し、より効果が高いものへシフト）
- ⑤パブリシティの獲得（各種取材依頼の受入れ体制を整備し、マスコミとの関係構築）

総務部

(1) 施設整備計画

①上野毛キャンパス施設・設備の整備

統合デザイン学科・演劇舞踊デザイン学科の大学院新設へ向けた施設
備改修

②八王子キャンパス施設・設備の整備

昨年度取得のキャンパス遊歩道南側校地の整備計画の策定

GHP・EHP空調更新工事（本部棟、共通教育センター、絵画北棟、
本部棟他）

コンピュータールーム改修工事（デザイン棟GD、PD）

省エネルギー対策のため直管形蛍光灯LED化工事（各所）

絵画北棟外壁・屋上防水改修工事

③山中純林苑施設設備整備・冷房設置工事

(2) 管理運営計画

①労務管理・人事制度の見直し

- ②人材の採用・育成
- ③法改正（ストレスチェック等）および危機管理への対応
- ④山中純林苑、奈良飛鳥寮セミナーハウスの管理・運営
- ⑤各建物の長期修繕計画推進（経過年数別の修繕計画、改修履歴のデータ化）
- ⑥備品管理データの更新
- ⑦災害備蓄品の更新

経理部

- ①資産運用基準変更及びポートフォリオの実践
- ②経営判断資料としての2018年～2033年間の財務シミュレーション作成
- ③財務基盤強化（教育研究経費支出の現状維持と管理経費支出の目標値▲3%削減）
- ④未整備（給与支払・決算報告書）のマニュアル作成

以 上